

巡回企画展のご案内

# 椅子の神様 宮本茂紀の仕事

*Legendary Chair Craftsman, Shigeki Miyamoto*

会期:<大阪>2019年6月7日(金)~8月20日(火)

<東京>2019年9月5日(木)~11月23日(土)

会場:LIXILギャラリー



写真 1: 2019年4月にワイス・ワイスから発表された佐藤卓氏デザインのソファ「SPRING」。自然素材と伝統技術を用いた一生モノの家具がコンセプト。写真は、開発を担当した宮本茂紀さんがつくった最初の試作品。  
製作・所蔵:五反田製作所グループ 撮影:尾鷲陽介



「建築とデザインとその周辺」をめぐり、独自の視点でテーマを発掘するLIXILギャラリーの企画展では、大阪：2019年6月7日（金）～8月20日（火）、東京：2019年9月5日（木）～11月23日（土）の期間、「椅子の神様 宮本茂紀の仕事」を開催します。

椅子張り職人として、また日本初の家具モデラーとして、現在も第一線で活躍する宮本茂紀さん（1937-）。修復の仕事から海外デザイナーズの家具や乗り物のシートまで幅広く手がける宮本さんは、これまで国内外から大きな信頼を得てきた、日本における椅子作りの第一人者です。本展は、宮本さんが携わってきた多くの名作やオリジナル作品を含む約 35 点の展示資料とともに、長年の経験と知識、そして確かな技術に裏打ちされた宮本茂紀さんの仕事に迫ります。

## 開催概要

### 「椅子の神様 宮本茂紀の仕事」

*Legendary Chair Craftsman, Shigeki Miyamoto*

**会 期** <大阪>2019年6月7日（金）～8月20日（火）  
<東京>2019年9月5日（木）～11月23日（土）

**開館時間** <大阪>10：00～17：00  
<東京>10：00～18：00

**休 館 日** <大阪>水曜日、8/13-16  
<東京>水曜日

#### 会 場

大阪会場：大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪南館タワーA 12階

東京会場：東京都中央区京橋3-6-18東京建物京橋ビル LIXIL：GINZA2階

**入 場 料** 無料

**企 画** LIXILギャラリー企画委員会

**制 作** 株式会社LIXIL

**協 力** 五反田製作所グループ、埼玉県立近代美術館、博物館 明治村、藤原敬介、株式会社ワイス・ワイス

**展示デザイン** +建築設計 田代朋彦

**会場グラフィック** HORIdesign 堀 恭子

## 展覧会について

カッシーナ、B&B、アルフレックス、梅田正徳、藤江和子、隈研吾、アントニオ・チッテリオ、ザハ・ハディド…。彼らは、宮本茂紀さんがともに椅子の試作開発に携わってきたメーカーやデザイナー、建築家たちです。職人との間を繋ぎ、製品化を支える家具モデラーとして、宮本さんは「やってみなければ、分からない」と開発に挑み、デザイナーらの意向をかたちにしてきました。細部まで妥協せず、その姿勢にこそ不可能なことを可能にする力が宿るのかもしれない。これは、宮本さんが多くのクリエイターたちから信頼を置かれる所以でもあります。しかし、そんな神業のようなことも、職人としての約 65 年のキャリアがあつてこそ。過去には迎賓館や明治村に残された椅子の修復も行ってきました。宮本さんは経験から得た知識や新旧の技術を椅子作りに活かし、さらに次世代に継承することも怠りません。人一倍の探究心と好奇心で、宮本さんの職人魂は常に先の姿を見据えています。

本展では、宮本さんが携わった数多くの仕事を、モデラーの仕事、修復や自ら手がける椅子開発を含む椅子張り職人の仕事、そして次世代を育てる仕事の 3 つに分類し、それぞれ数例を試作開発の具体的な取り組み方とともに紹介します。完成した椅子に隠された職人の熟考、判断、技術の痕跡が垣間見られることでしょう。本展が、新たな角度から椅子の奥深さや魅力に触れることのできる機会となることを期待します。

写真 2



写真 3



写真 4



写真 5



写真 6



## ●主な展示と見どころ

### <新作、名作で見るモデラー・宮本さんの仕事>

2019年4月に発表されたばかりの佐藤卓氏デザインのソファ「SPRING」を試作品(写真1)とともに紹介します。自然素材と伝統技術に拘った数年越しの企画で、カバーは初めて使用する鹿革張り。佐藤氏いわく、宮本さんの職人技を主役にした1脚です。その他、プロダクトデザイナーの梅田正徳氏の「月苑」、ザハ・ハディドの「Fluffy Chair」(試作品、写真2)の実資料をそれぞれ制作の背景とあわせて紹介します。

### <修復の経験から日本の洋家具の変遷を知る>

宮本さんは徒弟時代から、修復の仕事を多くしてきました。高い技術を買われて迎賓館の改修工事(昭和49年落成)のような大仕事も経験します。このような経験から宮本さんは日本の洋家具草創期から今日に至る椅子作りの変遷にも精通するようになります(写真3)。修復事例として、明治村から依頼された「竹塗蒔絵小椅子」を実資料で紹介し(写真4)。進駐軍によって上からペンキが塗られたことが分かった一脚です。

### <素材を探究する -BOSCO(ボスコ)シリーズの誕生>

伝統的な西洋の椅子作りに多く接してきた宮本さんにとって、その素材となる木はとても身近な存在です。宮本さんは個々の木の特性を伝えるために、ひとつのデザインで200種類ほどの木材の椅子をつくりました。これが「BOSCO」シリーズです。イタリア語で「森」を意味します。同一のデザインのため、それぞれの木肌の表情、木目の動きなどの違いが分かります。今回、その中から「オークの根」(写真5)と「ブナ」の2種(東京展はオークの根のみ)の木材による「BOSCO」を展示します。

### <座り心地を追求する -Mychair(マイチェア)の誕生>

これは「合う椅子がない」という小柄な奥様の一言がきっかけで生まれた椅子です。それぞれの体格に合うサイズで、その人なりの座り心地が追求された椅子は生産システムも計画されました。サイズは4段階、クッションにはスプリングと馬の毛や植物の繊維などの天然素材が使われています。カバーの布地も取り替えられる、まさに「Mychair」。会場では身長170cmの人用のLサイズを1脚展示します(写真6)。座り心地をお試しください。

### <指導者としての活動>

宮本さんは技術や知識の継承のため次世代の指導にも余念がありません。過去には学外ワークショップ「Mプロジェクト」を主宰。各美大から学生を選抜し、往年の椅子をリ・デザインするというものです。会場では第1回目(1990年)の参加者で現在デザイナーとして活躍する藤原敬介氏と米谷ひろし氏の体験を実資料とともに紹介します。現在進行形の「家具塾」は建築家とデザイナーとつくり手が一緒に考えるデザインの勉強会です。家具デザイナーの藤江和子さんが塾長を、宮本さんはスーパーバイザーを務めています。

## リリース用画像

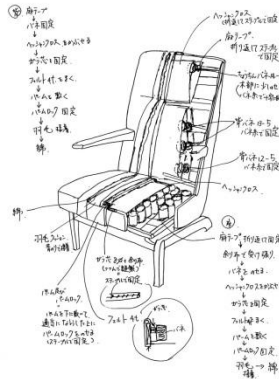
本リリースに掲載された画像(写真1~8)の送付をご希望の際は、メールにて担当者までお問い合わせ下さい。また、ウェブサイトにはその他の画像も掲載しておりますのでご確認ください、お問い合わせ下さい。

<https://www.livingculture.lixil/topics/gallery/g-1906/>

写真7



写真8



【写真キャプション・クレジット】 撮影2~6：尾鷲陽介 \*サイズの単位は(mm)。

写真2：Fluffy Chairの試作品。札幌にかつてあったイタリアンレストラン&バー「北倶楽部ムーンズーン」のため、内装を手がけた建築家ザハ・ハディド氏による椅子。W480×D530×H700 (SH445) デザイン：ザハ・ハディド・アーキテツク、製作・所蔵：五反田製作所グループ

写真3：クッション構造と素材の変遷を伝える椅子サンプル。着座できるものと併せて6脚展示します。各 W460×D520×H965 製作・所蔵：五反田製作所グループ

写真4：竹塗蒔絵小椅子。W430×D440×H873 所蔵：博物館 明治村

写真5：BOSCO (オークの根)。W420×D550×H1100 (SH450) デザイン：宮本茂紀、所蔵・製造元：五反田製作所グループ

写真6：Mychair (身長170cm用)。W630×D855×H1020 (SH380) デザイン：宮本茂紀、所蔵・製造元：五反田製作所グループ

写真7：月苑。W1100×D860×H820 (SH420) デザイン：梅田正徳、製造元：エドドラ社、所蔵・写真提供：埼玉県立近代美術館

写真8：Mychairの構造を詳細に書き記した図。所蔵：五反田製作所グループ



## 【略歴】

1937年東京都生まれ静岡県伊東市育ち。椅子張り職人・モデラー。戦後、椅子張り職人としての道を歩む。1966年に五反田製作所を創業し、国内外のトップデザイナー家具のライセンス生産を行う。日本初の家具モデラーとしてデザイナーの椅子から乗用車、電車のシートまで幅広く開発に関わる一方、迎賓館や明治村の洋家具の修復も請け負う。2007年黄綬褒章受章。著書に『世界でいちばん優しい椅子』(光文社)、『原色インテリア木材ブック』(建築資料研究社)、『椅子づくり百年物語』(農文協)がある。

ポートレート 撮影：尾鷲陽介

## 関連企画のご案内

【対談】家具を考える・建築と身体への架け橋 **終了しました**

日時 2019年7月20日(土) 14:00~15:30

講師 宮本茂紀(家具モデラー) × 藤江和子(家具デザイナー)

会場 LIXIL ショールーム大阪 セミナールーム

大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪南館タワーA 11階

費用 無料(※要予約、定員70名)

予約方法 電話もしくはホームページから

## 内容

多くのデザイナーたちの家具作りをモデラーとして支えてきた宮本さん。この対談では、榎文彦氏、伊東豊雄氏、磯崎新氏、石山修武氏など名だたる建築家とのコラボレーションのなかで家具デザインに挑んでいらっしゃる稀有な存在、藤江和子さんとの対話をとおして、お二人がどのように建築空間と身体を結ぶ家具作りに取り組みられているか、そこから見える家具の特性や魅力などをお話していただきます。

## 〔対談〕家具を考える・意匠と機能をつなぐもの

日 時 2019年10月15日(火) 18:30~20:00

講 師 宮本茂紀(家具モデラー) × 川上元美(デザイナー)

会 場 AGC Studio(東京都中央区京橋2-5-18 京橋創生館2F)

費 用 無料(※要予約、定員80名)

予約方法 電話もしくはホームページから

## 内 容

多くのデザイナーたちの家具作りをモデラーとして支えてきた宮本さん。川上さんとの初めての仕事は、アルフレックスから発売された椅子「NT」の試作でした。以降、いくつもの仕事を共にされてきたお二人です。この対談では、デザイナーとモデラーがどのように椅子作りに向き合い、完成形へと導いていくのかを、共有された仕事の事例とともに語っていただきます。その上で、モノづくりの視点から椅子作りに向けたお二人のお考えを対話形式でご披露いただきたいと思います。

## | 新刊 LIXILブックレットのご案内 |

LIXIL BOOKLET 『椅子の神様 宮本茂紀の仕事』

好評発売中(80ページ、本体価格1,800円)

## | お問い合わせ |

LIXIL ギャラリー( <https://www.livingculture.lixil/gallery/> )大阪会場/高橋麻希 東京会場/笥天留、村木玲美  
[xbn@lixil.com](mailto:xbn@lixil.com)

LIXILは、創業期のクラフトマンシップを今に語り継ぎ、常に建築家やデザイナーと手を携え、機能性と洗練された美しさの融合を追求してきました。それこそが、私たちが掲げる「LIVING CULTURE」というコンセプトです。私たちはミュージアム、ギャラリー、資料館および出版活動を柱とした文化活動を通して、ものづくりの技と心を次世代に伝え、斬新なアイデアを発信する場を提供し、LIVING CULTUREを表現していきます。LIXILは、ものづくりにこだわり、ライフスタイルや時代に合った美しく機能的な製品を作り続けることで世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献していきます。